

北海道港湾空港建設協会

会報

令和元年 5月

# 北のみなと

No.97

平成30年 8月撮影「写真提供：室蘭開発建設部」



## Report

北海道港湾空港建設協会 第34回通常総会開催	1
平成30年度 安全管理講習会	3
開会挨拶 (北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹)	
「港湾・空港・漁港工事の安全対策について」 (北海道開発局港湾空港部港湾建設課 建設第2係長 森 昌也)	
「建設工事における労働災害防止について」 (北海道労働局労働基準部安全課 地方産業安全専門官 小田島 暁)	
特別講演 飲酒と喫煙が関係する「食道がん」 (手稲溪仁会病院 消化器外科部長 木ノ下 義宏)	
平成30年度 港湾空港工事報告会	5
開会挨拶 (北海道港湾空港建設協会 技術委員長 藤田 幸洋)	
来賓挨拶 (北海道開発局港湾空港部 港湾建設課長 平澤 充成)	
工事報告	
「函館港若松地区岸壁建設工事」 (株式会社 松本組 土木部工事課長 澤田石 英二)	
「厚岸漁港-4.5m岸壁改良(上部工) その他工事」 (白崎・堀松経営建設共同企業体代表者 白崎建設 株式会社 工事課長 三浦 義史)	
「天塩港建設工事」 (白鳥建設工業 株式会社 工事部次長 竹野 利史)	
特別講演「建設現場の安全を考える」 (建設業労働災害防止協会北海道支部 駐在安全管理士 小林 昭夫)	
講評 (北海道港湾空港建設協会 技術委員会副委員長 宮本 義憲)	



第4種漁港 庶野漁港

庶野漁港は、襟裳岬の東15kmに位置し、寒流と暖流の合流する好漁場が沖合25kmと近いことから、地域漁業の前進基地及び襟裳岬沖を航行する漁船の避難基地として重要な役割を果たしています。

庶野漁港の整備は、昭和9～11年に初めて船入潤の築設が行われ、その後昭和25年には漁港法の施行に伴い第4種漁港に指定されると、国の直轄事業として整備が進められてきました。

昭和38年度からは拡張工事が始まり、地元漁船はもとより外来漁船もさらに安心して入港出来るよう、平成13年度までに防波堤等の延伸が完了し、避難基地としての現在の港形が作られてきました。

平成25年度からは屋根付岸壁や人工地盤及びえりも漁業協同組合による荷さばき施設の整備が進められ、平成31年2月にはこれらの施設が完成し、供用開始式典が執り行われました。

今後は避難基地として安心して利用できるだけでなく、安全な水産物を提供する衛生管理型漁港として、地域水産業の一層の発展に寄与することが期待されています。

## 各種記事

我が社の安全衛生管理 (㈱富士サルベージ 工事部長 高橋 裕司) …	8
私の趣味『趣味を振り返ると』(勇建設株式会社 坂 昭弘) …	10
新造船の紹介 SEP型多目的起重機船「CP-8001」の完成について (五洋建設㈱) …	12
工事現場紹介 平成30年度 新千歳空港の構内道路アンダーパス建設について (札幌開発建設部 千歳空港建設事業所副長 福本 貴則) …	14

## Topics

庶野漁港衛生管理施設供用開始記念式典の開催 …	16
ポート・オブ・ザ・イヤー2018紋別港受賞について …	18
平成30年度 第2回小樽港フィールド・ラーニング開催 …	20

## Information

業界だより・広報委員会だより …	21
------------------	----



# 北海道港湾空港建設協会 第34回 通常総会開催



通常総会

当協会の第34回通常総会は、平成31年4月18日（木）ホテル札幌ガーデンパレスで開催した。全会員数78社のうち69社に出席をいただき、平成30年度の事業報告・収支決算および監査報告、平成31年度・令和元年度の事業計画（案）・収支予算（案）について原案どおり承認された。

平成31年度・令和元年度事業計画については、引き続き安全講習会や工事報告会、北海道開発局等発注機関への要望及び意見交換などに取り組んでいくことを確認した。冒頭、あいさつに立った宮崎英樹会長は、「北海道は、農水産物流の拠点として全国に対し貢献している食糧基地であること」を強調した。また、道内への観光客が増えていることから、港湾の受け入れ機能やインバウンド



宮崎会長

観光の振興に対応した空港機能の重要性を示し、港湾と空港整備の必要性を訴える要望活動を推進する姿勢を見せた。

来賓である北海道開発局の眞田仁港湾空港部長は、週休2日工事に関して「本年度から海上作業と陸上作業の現場閉所日数を個別に評価する試行や、トータルで4週8休を認める試行を新たな施策として進める」と報告し、安全に工事進めるよう要請した。



眞田港湾空港部長

日本港湾空港建設協会連合会の林田博会長は、入札契約手続きについて、国に対し不調・不落手続きについて一層推進していくように協力を求めていることを説明した。



日港連林田会長

## 平成31年度令和元年度 事業計画

### 1. 講習会等

- 1) 安全管理講習会の開催  
港関係7団体の共催で安全管理講習会を開催する。
- 2) 港湾空港工事報告会の開催  
港湾空港建設技術の開発、向上を目的とし、会員が施工した港湾、漁港、空港工事について、施工管理、品質管理等に関する報告会を開催する。

### 3) シンポジウム等への参画

港湾空港建設技術を開発、向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに港湾空港整備の促進に寄与するため、関係行政機関、関係団体と連携してシンポジウム等の事業に参画する。

### 2. 要望及び意見交換

- 1) 北海道開発局等に対し港湾空港関係予算及び実施に関する要望及び意見交換を実施する。
  - ①港関係7団体の共催で要望・意見交換会を開催する。
  - ②日本港湾空港建設協会連合会との共催で要望・意見交換会を開催する。
- 2) 北海道港湾振興団体連合会の一員として港湾整備促進及び利用振興活動に参画する。

### 3. 調査研究

港湾空港建設技術の開発、向上に関する調査研究及び資料の収集並びにその他工事の施工等に関する事項について調査検討を行う。

### 4. 会報の発刊

港湾空港建設業の社会的地位の向上に関する宣伝及び啓発等を目的として会報誌「北のみなと」を3号程度編集し発刊する。

### 5. 他事業への参加

- 1) 日本港湾空港建設協会連合会が開催する会議等に参加する。
- 2) 防災訓練の参加  
「災害発生時における港湾施設等の緊急的な応急対策業務に関する包括協定」等に基づく防災訓練に参加する。

(記事は、「北海道建設新聞」「北海道通信」から一部抜粋して掲載しました)

# 平成30年度 安全管理講習会

日時 平成31年2月21日（木）9:30~12:00

場所 ホテル札幌ガーデンパレス

主催 北海道港湾空港建設協会

（一社）日本埋立浚渫協会北海道支部

全国浚渫業協会北海道支部

（一社）日本潜水協会札幌支部

（一社）北海道建設業協会港湾・漁港部会

（一社）日本海上起重技術協会北海道支部

（一社）全日本漁港建設協会北海道支部



## 港関係7団体が安全管理講習会開催 安全教育の徹底確認

北海道港湾空港建設協会（宮崎英樹会長）、北海道建設業協会港湾・漁港部会（藤田幸洋部会長）など道内の港関係7団体は2月21日ホテル札幌ガーデンパレスで2018年度安全管理講習会を開催した。

講演した北海道開発局港湾建設課の森昌也建設第二係長は「北海道開発局港湾・空港・漁港では、新規入場者の事故が多い。それも入場1カ月内の発生率が48%となっている」と現状を報告し、安全教育の徹底を訴えた。



各団体の関連企業から120人が出席。北海道港湾空港建設協会の宮崎会長は働き方改革が業界のみならず全産業の喫緊の課題だとし「速やかに解決していかなければならない」と強調した。また、今回の講習会を通じ「実りあるものとなるよう期待する」と語った。



宮崎会長

講演では北海道開発局の森建設第2係長が「港湾・空港・漁港工事の安全対策」を演題に講話した。全産業の死亡災害が1978年をピークに減少し、2016年度は294人と過去最少になったことにふれた上で、17年度には建設業が34.9%を占めていることを説明。担い手の確保の観点からも現場の危険を解消していくよう求めた。



森建設第2係長

また、港湾・空港・漁港工事の特徴として「挟まれ・巻き込まれが4割と多い。経験年数で見ると、10年未満で挟まれ・巻き込まれが61%を占める」と報告。施工のタイミングで、油断・軽視から発生する災害の安全対策に取り組んでいく重要性を訴えた。



小田島地方産業安全専門官

道労働局安全課の小田島暁地方産業安全専門官は「建設工事における労働災害防止」を演題に講演。災害の事例などを紹介しながら、安全活動のポイントを分かりやすく紹介した。

このほか、特別講演では「飲酒と喫煙が関係する食道がん」をテーマに、手稲溪仁会病院の木ノ下義宏消化器外科部長が講義した。



木ノ下消化器外科部長

# 平成30年度 港湾空港工事報告会

**日時** 平成31年 2月21日 (木)  
**場所** ホテル札幌ガーデンパレス  
**主催** 北海道港湾空港建設協会

平成31年2月21日(木) ホテル札幌ガーデンパレスにおいて、当協会主催の「平成30年度港湾空港工事報告会」を開催した。報告された工事は、株式会社松本組、白崎・堀松経常建設共同企業体、白鳥建設工業株式会社が平成29年度に施工した3件で、工事を担当した技術者が工事内容、工事現場での課題や課題への取組み、地域貢献などを紹介し、出席者は各工事の工程管理、品質管理、安全管理や創意工夫などの技術について研鑽を深めた。



港湾空港工事報告会

## 主催者挨拶



**主催者挨拶** 藤田技術委員長  
 開催に当たり、主催者を代表して藤田技術委員長から、工事報告会について、平成29年度完成した工事から難易度及び評価点が高い3本の工事を選定し、発表者には「良い点、悪い点、苦勞した点」について報告をお願いした。特別講演では、皆様方に今一度どうすれば安全な作業ができるか考えていただくため、講師に建設業労働災害防止協会 北海道支部駐在安全管理士 小林昭夫氏をお願いした旨説明があり、最後に、本日出席された方にとって工事報告会が有意義になることを祈念して挨拶とされた。

## 来賓挨拶

続いて北海道開発局港湾空港部 港湾建設課 平澤充成課長から挨拶をいただきました。

平澤課長は、昨年出席させていただき大変勉強になったので今回の工事報告会も楽しみにしていたとし、平成

30年度工事ではすべての工事について週休二日制に取り組んでいただき、その中で今後の工事では少し工夫した形で週休二日制の工  
 来賓挨拶 平澤港湾建設課長  
 事に取り組んでもらうことや、技術の後継者や担い手を作るためワークライフバランスをとることや、安心して働ける職場、魅力ある職場にしていき、若い人たちに発信する必要があるとした。最後に発表される方が良い発表ができ、参加された方には良い報告会となることを祈念して挨拶とされた。



来賓挨拶 平澤港湾建設課長

## 工事報告

報告工事は、(株)松本組施工の「函館港若松地区岸壁建設工事」、白崎・堀松経常建設共同企業体施工の「厚岸漁港-4.5m岸壁改良(上部工)その他工事」、白鳥建設工業(株)施工の「天塩港建設工事」の3件で、各工事担当者から工事概要の説明と工程管理・品質管理・安全管理や課題と課題に対する対応策、工事現場の創意工夫の取組みなどについて報告された。

## ●函館港若松地区岸壁建設工事



株式会社松本組  
土木部工事課長  
**澤田石 英二 氏**

- 請負者 株式会社 松本組
- 工 期 平成29年 9月12日～平成30年 3月29日
- 発注者 函館開発建設部
- 工事内容  
若松地区-10m岸壁  
本體工【鋼杭式】  
鋼管杭（B区間）φ1800×t19×L63,200（28,000  
下杭+35,200上杭）打設 20本  
鋼管杭（C区間）φ1800×t25/19×L65,400（30,200  
下杭+35,200上杭）打設 4本

### • 報告概要

工事内容の説明では、最初に若松地区旅客船バースの全体事業内容及び本工事の鋼管杭打設全体を函館山をバックにした写真で分かりやすく説明した後、工事の流れに沿って施工状況の説明と動画にて鋼管杭の運搬から打設まで視聴してもらい、最後に施工上の配慮事項として鋼管杭打設時の施工管理や周辺環境に配慮した騒音対策、地域貢献では見学ステージの設置と工事見学会の開催について報告された。

## ●厚岸漁港-4.5m岸壁改良（上部工）その他工事



白崎建設株式会社  
工事課長  
**三浦 義史 氏**

- 請負者 白崎・堀松経常建設共同企業体
- 工 期 平成29年 6月23日～平成30年 3月29日
- 発注者 釧路開発建設部
- 工事内容  
厚岸漁港-4.5m岸壁（上部工） L=100.2m

厚岸漁港-4.5m岸壁（付属工）	L= 49.0m
厚岸漁港-4.5m岸壁（維持補修工）	L= 98.3m
厚岸漁港-4.5m岸壁（土工）	L= 97.0m
厚岸漁港-4.5m岸壁（改良）	L= 95.0m

### • 報告概要

厚岸漁港-14m岸壁は、流通拠点漁港として屋根付岸壁や人工地盤の整備等により、衛生管理対策を推進するとともに、耐震強化岸壁等の整備により漁港の防災対策の強化を行う工事と説明があり、各工種の施工の流れについては写真を多用し、分かりやすく説明された。課題の検討では、特に他工事を含めた工事工程について検討を加え、他工事の杭打ち作業を最優先にして当初、全エリアの引渡を予定していたが3工区に分けて引渡することで地中梁工事の着手を早め、他工事の人工地盤の施工工程に影響しないよう各工事との工程の擦り合わせを行った。創意工夫や社会性及び安全性に関する取り組みでは、高さの管理にバーコードレベルやレーザーレベルの使用により高さの読み間違いの防止、土砂運搬では公道への濁水落下を防止するためダンプトラックに濁水防止カバーを装着するなどの工夫が報告された。

## ●天塩港建設工事



白鳥建設工業株式会社  
工事部次長  
**竹野 利史 氏**

- 請負者 白鳥建設工業 株式会社
- 工 期 平成29年 4月6日～平成29年11月8日
- 発注者 留萌開発建設部
- 工事内容  
防波堤（西外） L=15m  
撤去工 3tブロック撤去 3個、24.9t根固ブロック撤去 6個、37.1t根固ブロック撤去 1個、2tブロック撤去 15個、25tブロック撤去 19個、30tブロック撤去



- 去 48個
- 基礎工 捨石投入 586 m<sup>3</sup>、捨石本均し ± 5 cm  
213m<sup>3</sup>、捨石荒均し ±30cm 154m<sup>3</sup>、捨  
石荒均し ±50cm 106m<sup>3</sup>、アスファルト  
マット 7枚、石かご製作据付 18個
- 本体工 (ケーソン式) ケーソン据付 1函、中  
詰工 663m<sup>3</sup>、蓋ブロック製作据付 6  
個、間詰コンクリート 10m<sup>3</sup>、かき落と  
し 28m<sup>3</sup>
- 被覆・根固工 2t被覆ブロック据付 33個、3t  
被覆ブロック据付 6個、根固ブロック  
製作 4個、24.9t根固ブロック据付  
9個、37.1t根固ブロック据付 3個
- 上部工 上部コンクリート 190m<sup>3</sup>
- 消波工 2tブロック据付 192個、25tブロック  
据付 94個、30tブロック据付 48個
- 仮設工 バックホウ浚渫 1,156m<sup>3</sup>
- 導流堤 (改良) L=10m
- 基礎工 石かご製作・据付 77個、消波工 10t  
ブロック製作 69個

• 報告概要

西外防波堤は、外海に面し波浪の影響を強く受けるとともに、天塩川からの雪解けや降雨による濁りが発生するなど厳しい条件である旨報告があり、そのため施工時期に制限のある導流堤を優先させながらも並行して防波堤工事も進め、濁りにより導流堤の施工ができない日でも防波堤の捨石マウンド天端均しをタンピングハンマーにより施工して工程を短縮させた。ケーソン据付では作業船を多数稼働させ、据付から根固方塊据付、間詰コンクリート打設までの一連作業を1日で完成させ、据付ケーソンが長年仮置きされていたため、浮上させ安定性と漏水の確認をし、海上の安全対策では一般船舶の位置情報をリアルタイムに確認できる船舶安全監視システムを使用して事故防止に努めたと報告された。

部 駐在安全管理士 小林昭夫様より「建設現場の安全を考える」と題して特別講演がありました。



特別講演  
小林駐在安全管理士

労働災害の発生状況では、年齢別死亡災害では50歳以上が全体の52%、現場入場経過日数別死亡災害では、入場1週間以内が42%、特に新規入場者は初日が最も多く、種別では墜落死亡災害が多いので工事現場で注意するとともに新規入場者教育を十分行うよう指導がありました。講演の最後には、現場巡回時の安全等の良い事例の紹介があり、今後の工事現場での取り組みのお願いがありました。

講評

最後に技術委員会 宮本義憲副委員長より各工事報告について講評を行った。



講評 宮本副委員長

1件目の函館港若松地区岸壁建設では、「近接した施設がある中で鋼管杭を精度良く打つことがポイントで、その中で3次元自動測量システムゼロガイドナビを使用して精度良く打設した」ことを評価した。2件目の厚岸漁港-4.5m岸壁改良(上部工)その他工事では、「3本の工事が競合する中で工程管理を適切に行い、後続工事へスムーズに進めた」ことを評価した。3件目の天塩港建設工事では、「工事の進捗を図るため、現場を見る力が発揮され困難な工事を完成させた」ことを評価した。

最後に、「この報告会がひとつの契機として、技術力が確実に蓄積され、将来に向けて技術力が継承されていくことを心から祈念している」と述べ工事報告会が終了した。

特別講演

工事報告の最後に、建設業労働災害防止協会北海道支

# 我が社の安全衛生管理

(株)富士サルベージ 工事部長 高橋 裕司



## 1. はじめに



当社は、1951年にサルベージ業を主事業として創業しました。1968年には、海洋業務の経験と技術を基に建設業許可を取得し、今日まで自社作業船を駆使し、港湾漁港の建設などの港湾土木工事、水産施設設置などの水産土木工事を行っています。

2003年にはISO9001を取得し、品質の向上、経営改善を図り、質の高い誠実な業務を達成することを旨に、社員教育にも積極的に取り組んでおります。

会社の理念は「誠実さを旨として、熱意ある企業活動を通じて、住みよい社会環境を構築します。」です。

人類の未来のため、社会や地域に必要とされる企業として「Passion for the Future」をスローガンに未来に向けての情熱をもって、どこまでも誠実な活動を心がけ邁進していきたいと考えています。



## 2. 本社安全衛生基本方針



当社は、安全を最優先に考え、年度毎に方針を策定し、会社一丸となり安全衛生活動を展開しています。平成30年度は

### ■『安全衛生基本方針』

「安全はすべてに優先する。」を基本とし、会社一丸となってルールへの遵守を徹底し、無事故・無災害を達成する。

### ■『安全目標』

「労働災害ゼロ」の達成

### ■『安全目標』

「高めよう 一人ひとりの安全意識

みんなで目指そう災害ゼロの明るい職場」



## 3. 安全衛生管理計画



安全衛生管理体制の強化を図るため、年度毎に重点施

策事項、具体的な実施事項を定め、個々の有効性及び目標達成度を検証し、次年度計画に反映させ、安全衛生の向上を目指し活動しています。



## 4. 安全衛生管理活動



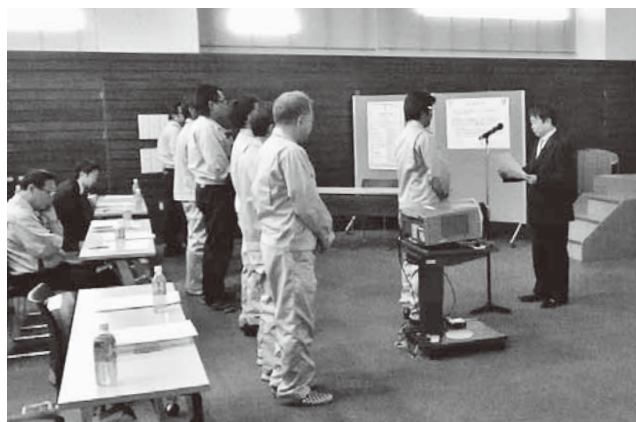
### ①安全大会

毎年4月に全社員と協力会社10数社参加のもと開催しています。



社長訓示

はじめに須田社長の訓示、工事部長による安全衛生管理計画の説明後安全表彰、社外講師（労働基準監督署）の講話を交えて、安全意識の高揚を図っています。



協力会社安全表彰

### ②本社安全パトロール・本社安全協議会

毎月1回、安全衛生委員会メンバーと協力会社安全委員による現場パトロールを実施し、現場の安全衛生状況



外部講師による安全講話

を点検する。パトロール後点検結果、是正事項等を確認し内容を各現場とも共有し、管理水準の向上を図る。



本社安全パトロールの実施

### ③安全及び衛生週間

安全及び衛生週間には、社長が率先してパトロールを実施し、メッセージ及び本週間の活動等を伝達し、安全面と共に作業環境などについても現場支援を行っている。

## 5. 作業所安全衛生管理活動

各作業所では、リスクアセスメントを取り入れた工事安全衛生管理計画書を基に、工事特性に合った安全目標と重点項目を掲げ安全衛生活動の強化に努めています。

また新規入場者教育、職長教育及び安全教育訓練等を実施し、作業所長による現場巡視を徹底する事で災害ゼロを目指し安全衛生管理活動を展開しています。



安全教育訓練の実施



## 6. その他の活動



毎年7月の海の日には、港湾工事に携わる会社として地域の環境保全に貢献するべく、みなとの清掃活動を協力会社の方々と共に実施しています。

また12月には、はこだてクリスマスファンタジーの海のうえのクリスマスツリー用台船等、地域行事に積極的に参加しています。



みなとの清掃



海の上に浮かぶツリー



## 7. むすびに



今後も、安全を最優先に考え、一人一人が強い責任感と信念をもって安全安心な職場環境を整備し、災害ゼロの明るい職場を作るよう実行します。

また、地域社会に必要とされる企業であるべく、全社一丸となって努力していきます。



# 私の趣味

## 『趣味を振り返ると』

勇建設株式会社 坂 昭弘

まさか私に依頼が来るとは夢にも思いませんでした。というお決まりの言葉で始めさせていただきますが、生憎、人に大きな声で言えるような趣味を持っていないのが現状です。とはいえ、せっかくの機会ですので、自身の趣味の遍歴を若干振り返ってみたいと思います。

### 幼少期

私は、いわゆるファミコン世代で、私もご多分に漏れず友達と一緒に夢中になったものですが、その他にキーホルダー集めが趣味のひとつでした。父は出張が多かったので、お土産としてもらったのがきっかけだったと思います。キーホルダーは、その土地ごとの特徴やシンボルを表現しているものが多く、それは、まさにその土地に触れた気分になり、子供心ながら様々な所があるということに興味を覚えました。現在は、残念ながら自分で行けるようになったせいか収集しておりませんが、地産のものをお土産で買うことは続けております。



キーホルダーコレクションの一部

### 青年期

大学に進学してから趣味の転機が訪れます。自動車との出会いです。これは、大学の所在が群馬県と

いうことが大きく影響しました。群馬県といえば自動車保有台数全国1位の県です。2017年においては、人口100人あたり69.58台で、未成年などを考慮すると、ほぼ1人に1台ということになります。背景として、公共交通機関が少ないことも起因しており、県内の大学生のほとんどが車を所有していました。私の大学においては、各校舎が約30km離れており、車を所有していない者は友人にらせてもらうしかない状況でした。

そんなわけで、私も所有することになったのですが、当時、車に興味なかった私は、どの車を選んだら良いか悩みました。結局、雪道でも乗れる4WDで、やや小さめの車体、かつ楽しく乗りたいと辿り着いた車が日産パルサーでした。諸元の紹介は割愛しますが、コンパクトボディにそれなりの馬力があるエンジンを搭載した車であり、ドライブがとても楽しくなる車です。

さて、所有したものの、自分の車はどんな車なのだろうと調べようとしたところ、どうやら販売台数が多くなく、ほとんど情報がありませんでした。そこで、雑誌で同じ車同士の集まりである「オーナーズクラブ」の存在を知り、入会することにしました。そのクラブでは、その車種の悩みや特徴、自分達で出来る範囲のパーツ交換や修理のほか、仲間と様々な所へ行くことになりました。ツーリングです。具体的には、那須高原でコテージを借りて、各グループでカレーを作って味を競いつつ一晩中騒ぎましたし、河口湖の湖畔でもコテージに泊まり、東海方面

の仲間と合流して語り合ったこともありました。何せ運転となるとお酒を飲めないなので、ツーリングは宿泊込みが多く、宿はコテージが定番となっていました。そして、年に一度、全国大会として長野県の諏訪に集まります。この道中が面白く、最初、まずは深夜、コンビニに数台が集合し出発します。道中は長いのでコンビニや道の駅で何回か休憩を入れますが、その度にいつの間にか仲間が合流し、台数が増えているのです。

このようにして仲間とのツーリングを重ねるうち、きちんと運転したいという技術の向上にも興味が出てきました。そこで、仲間が共催しているサーキットでの講習会や走行会に積極的に参加し、メーカーのテストドライバーなどの講師から正しい操作や知識を教えていただきました。



大学時代の筆者と愛車

そうして、ますますドライブが楽しくなり、ツーリングの機会が増えるに従い、温泉へ行くことも多くなってきました。温泉では、その土地の温泉名が入ったタオルを必ず購入し、記念にしました。今でもタオルを見るとそれぞれの温泉とツーリング時の光景を思い出します。何だかキーホルダー集めと似ていますね。

北海道に戻ってからは、たまに行く遠出のドライブやサーキットの走行会で運転を楽しんでいましたが、札幌から近いサーキット場である白老カーランドの閉鎖もあって、徐々に活動が減ってきました。

今では、遠出する時のドライブを楽しむ程度ですが、諸事情のため愛車パルサーを眠らせています。時を見て復活したいものです。



筆者は向かって後列一番右

将来は、ドライブを楽しみつつ全国各地の温泉を巡ることを夢見ています。たまにキーホルダーを買うでしょうし、港も巡りたいと思っています。

最後になりますが、乱文乱筆になったことをお詫びするとともに、このような貴重な経験の場を与えていただいた「北のみなと」関係者の皆様に深く感謝いたします。そして、今後も業界発展のために邁進してまいりますので、引き続きご指導とご鞭撻をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。



閉鎖前の白老カーランドで筆者と愛車

# SEP型多目的起重機船 「CP-8001」の完成について

RH13/H0'

6/H0'

五洋建設株式会社

## 概要

「CP-8001」は、800t吊全回転式起重機船にSEP (Self-Elevating Platform) 機能を付加することにより、気象海象条件の厳しい海域であっても波浪の影響を軽減させ、安全性、稼働率、施工精度の高いクレーン作業が可能です。



## 特長

### 国内初の大型クレーンを搭載したSEP船

本船は、欧州のSEP型洋上風力発電施設設置船の7割以上を手掛けるGustoMSC社（オランダ）が基本設計および油圧ジャッキシステムの製作を行い欧州を代表するクレーンメーカーであるHuisman社のクレーンを搭載した国内初の大型クレーン搭載のSEP船です。

### 世界最新型の連続式油圧ジャッキシステム

GustoMSC社が開発した世界最新型の連続式油圧ジャッキシステムを搭載しています。従来式のようなジャッキの盛り替え時間が不要で、毎分40cmの速度で連続したジャッキアップが可能です。ジャッキ能力は、レグ1本あたり2,400tです。

### 大水深でも施工可能

本船は水深30mでのジャッキアップが可能です。さら

に、長尺レグを使用することにより、水深50mまで対応が可能です。

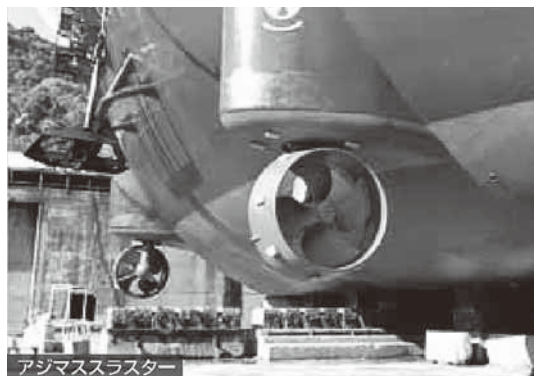
### 高精度な自動船位保持装置 (DPS)

船首船尾の両舷にそれぞれ1基ずつ、合計4基のアジマススラスターを搭載しています。スラスターは十分な能力を備え、気象・海象条件の悪い海域でも確実な位置保持が可能です。

また、本船のDPSは、ClassNK DPS-Bの認証を受け、高精度な位置保持が可能になりました。またスラスター、制御装置、電源装置などのいずれか1つが損傷しても、自動位置保持機能を失わない信頼性の高い装置です。



DPSによる自動船位保持



アジマススラスター

### 最大吊能力800トンの全回転クレーン

国内における全回転式起重機船としては最大級のクレーンを搭載し、10MW級の風車の設置が可能です。



また、作業半径が大きい場合でも高い吊り能力を有します。

### 効率の良い建設作業を実現

800t吊全回転式クレーンを搭載することにより、大型海洋構造物の設置作業や、海中基礎の建設作業が可能です。本船とともに当社が保有する自航式多目的起重機船「CP-5001」を併用することにより、運搬や設置などの一連の建設作業を効率的に行うことができ、海上工事の生産性向上を実現します。

### 十分な居住スペース

最大120名の居住が可能で、事務室7部屋、食堂、厨房、浴室、洗濯室、フィットネス室、医務室、女性専用の居住設備などを備えています。また、緊急時対応用のヘリデッキも備えています。



ブリッジ打合せスペース

### 最新技術を装備

気象・海象条件の厳しい海域での作業や長期滞在での作業における施工性、安全性、稼働率、福利厚生面の向上を目的に多くの最新技術を採用しています。

本船に搭載している主なシステムや装置を以下に示します。

- 自動船位保持装置
- 警報監視システム
- 航海および海上通信システム
- TV会議システム
- 海底地形調査システム
- 遠隔アクセス保守管理システム
- 電動伸縮式ギャングウェイ
- ジャッキ操作装置
- 電源管理システム
- 衛星通信システム
- カメラ監視システム
- 施工管理システム
- バラスト制御装置
- 杭立て起こし装置

## 主要目

### ①一般

船種：SEP型多目的起重機船  
設計形式：GustoMSC GJ-3750C  
航行区域：近海区域、A1・A2・A3水域  
船級：ClassNK

### ②主要寸法

船体寸法  
長さ：73m（垂線間距離）  
全幅：40m  
深さ：6.5m  
満載喫水：4.35m（ベースライン）  
デッキ面積：1,750㎡

### ③レグ仕様

レグ長：66.7m（設計最長86m）  
スパッドカン：あり  
ジェットイングシステム：あり

### ④ジャッキシステム

型式：GustoMSC油圧連続式ジャッキ装置  
ジャッキ能力：2,400t/本  
昇降速度：0.4m/分  
レグ操作速度：0.6m/分

### ⑤その他

自動船位保持装置：ClassNK DPS-B  
最大搭載人員：120人  
ヘリデッキ：あり

### クレーン能力

定格総荷重	800t	600t	400t	200t
作業半径	26m	35m	48m	76m

洋上風力発電プロジェクトは、港湾区域に引き続き、一般海域においても洋上風力開発を促進する法律が整備されたことから、一層推進されるものと期待されます。本船は、気象・海象条件の厳しい海域でも、高い稼働率で安全に高精度の施工が行えるため、洋上風力発電施設の設置工事や港湾工事等に積極的に活用する予定です。



# 平成30年度 新千歳空港の構内道路アンダーパス 建設について

RHI



RIHO'

札幌開発建設部 千歳空港建設事業所副長 福本 貴則



図1 新千歳空港国際線ターミナル地域再編事業 整備位置図

## 1. はじめに

新千歳空港では、アジア地域を中心とした観光需要の拡大に伴い、国際線旅客数が2015年に211万人、2017年には329万人に達するなど前年比2～3割増しの勢いで過去最高記録を更新し続け、就航便数の急激な増加や、国際線旅客数の増加により、CIQの混雑、駐機スポットの不足、誘導路上の輻輳が顕在化している。

これらの解消のため、国際線エプロンの拡張を行い、駐機スポット不足の解消、南側誘導路新設による誘導路上での輻輳緩和、国際線ターミナルビル内のCIQ施設を拡張する事を目的とした「新千歳空港国際線ターミナル地域再編事業」を推進し、訪日外国人旅行者の受入機能の強化を図ることとした。

## 2. 工事概要

本工事は、南側誘導路の整備により分断される既存構

内道路の交通動線確保のため、地下道化とする工事である。工事内容としては、函渠工としてボックスカルバート（コンクリート量15,000m<sup>3</sup>）の構築をはじめ、土工として土砂掘削43,000m<sup>3</sup>、舗設工として、13,000m<sup>2</sup>また電気工事として道路照明、道路ヒーティングを設置するものである。

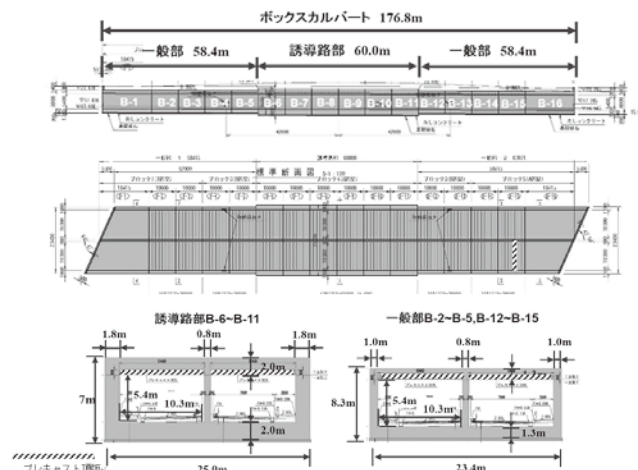


図2 ボックスカルバート構造図



### 3. 施工状況

構内道路の地下道化（ボックスカルバートの構築）は、平成29年度末に現構内道路の横に迂回路を建設、迂回路の供用開始後に設置箇所の掘削を開始した。平成30年6月からはボックスカルバート本体の構築作業を開始した。

当工事では工期短縮の工夫として、当初設計より頂版部分に型枠代わりのPC部材を採用、通常作業の場合に必要な型枠支保工を不用とし、ボックス上部での作業と下部での作業を同時に行う事で作業進捗を向上させた。

施工途中の平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震の余震に対する安全対策として、ボックス内空部での作業に支障が出ない範囲でパイプサポートを設置

し、作業の安全性向上を図ることとした。

更に、作業形態別に作業ヤードの分離（クレーン揚重専用ヤード、コンクリート打設専用ヤード）、足場一体形型枠や、大型型枠・組立鉄筋のパネル化の他、大型タワークレーンの使用で、狭隘な作業ヤードを有効活用する事が可能となった。これらのことにより、作業の安全確保、作業効率を向上させ、無事故無災害で工事を完成することが出来た。

### 4. おわりに

今後は、このカルバート上の南側誘導路の建設を進め、早期の完成を目指し工事を進めていきたい。



写真1 管制塔からの全景



写真2 PC頂版架設状況

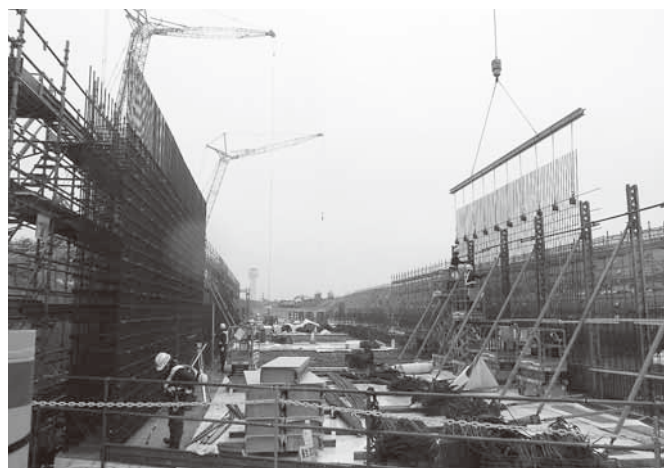


写真3 側壁・中壁鉄筋建込状況



# 庶野漁港衛生管理施設 供用開始記念式典の開催

～屋根付き岸壁及び人工地盤などの衛生管理施設が完成～

室蘭開発建設部 浦河港湾事務所

## ■はじめに

庶野漁港は、えりも岬周辺海域で操業する漁船の避難拠点であるとともに、えりも岬東部海域を主な漁場とするサケ定置網、磯根等の沿岸漁業の流通拠点となっており、えりも漁業協同組合では、地場産水産物の付加価値向上を図るため、品質、鮮度保持に取り組んでいます。

また、平成23年に発生しました東日本大地震に伴う津波により、荷捌き所などの漁港内施設の破損や漁業機材

の水没・流出など大きな被害が発生し、漁業活動への支障が生じました。

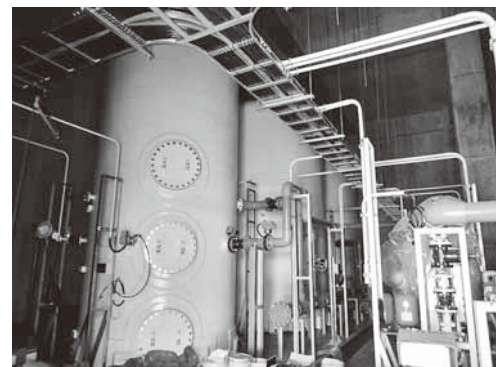
このような情勢から、平成24年度に特定漁港漁場整備事業計画の変更を行い、翌平成25年度より、流通拠点としての水産物の陸揚げから流通に至る総合的な衛生管理対策の強化を目的とした「屋根付き岸壁」及び「清浄海水導入施設」、用地不足の解消や津波からの一次避難を目的とした「人工地盤」の整備を進めてきました。



衛生管理施設全景



屋根付き岸壁



清浄海水導入施設（ろ過装置、貯水タンク）

## ■供用開始記念式典

今般、室蘭開発建設部が整備を進めていた屋根付き岸壁や人工地盤、えりも漁業協同組合が整備を進めていた荷捌施設が完成したことから、2月23日（土）に庶野漁港荷捌施設内において衛生管理施設供用開始記念式典を開催しました（主催：庶野漁港衛生管理施設供用開始記念事業実行委員会）。式典には約70名が出席し、主催者である大西正紀えりも町長の挨拶の後、堀井学衆議院議員、吉塚靖浩水産庁漁港漁場整備部計画課長より祝辞をいただきました。

その後、牧田浦河港湾事務所長より人工地盤等について、平井柊ぎょれん設計センター設計次長より荷捌施設についての工事報告があり、最後に来賓や関係者によるテープカットが執り行われました。

## ■おわりに

衛生管理施設の完成により、「作業環境の清潔保持」「水産物の鮮度保持」等の衛生管理の方策に対して、ソフト・ハードの両面からの対策が可能となり、えりも町をはじめ、周辺地域の水産業の一層の発展が期待されます。



テープカット



主催者挨拶：大西えりも町長



祝辞：堀井衆議院議員



祝辞：吉塚水産庁計画課長



# ポート・オブ・ザ・イヤー2018 紋別港受賞について

公益社団法人 日本港湾協会では、情報誌「港湾」の読者からの投票により、全国およそ1,000の港の中から、みなとまちづくりなどの活動でみなとに関する話題づくりに、その年で最も優れた港湾を「ポート・オブ・ザ・イヤー」として顕彰しています。この度、道内の港湾として初めて「紋別港」が「ポート・オブ・ザ・イヤー2018」を受賞しました。紋別港の受賞理由としては、港湾協力団体（みなとオアシスもんべつ）や地域住民が一

体となり、みなとの賑わいづくりに積極的に取り組んでいること、昨年8月に「第11回みなとオアシスSea級グルメ全国大会 in もんべつ」を開催し地域の活性化に大きな成果をあげたこと、紋別港を含む北海道内6港が連携して策定した「農水産物輸出促進計画」が全国で初めて国土交通省の認定を受け、平成30年度から屋根付き岸壁の整備に着手し、北海道の農水産物の輸出拡大に貢献していることなどが挙げられます。



会長から市長への授与



賞状・盾



1月23日には、約1,000人の港湾関係者が参加した「港湾関係団体新春賀詞交歓会」の開催にあわせて、授賞式が開催され、日本港湾協会の宗岡良一会長から紋別市の宮川良一市長へ表彰状と盾の授与が行われました。

地元紋別市では、2月23日に武部新衆議院議員のご臨席を賜り、関係者を招いての受賞報告会が開催されました。

武部議員からは「関係者の努力があって北海道初の受賞となったことは誇り。地域の皆さんが港を街づくりの中核として活用していることが受賞につながった。これからもバックアックしていく。」とお祝いの言葉をいただきました。

宮川紋別市長は「昨年の取組だけが評価されたのではない。ポートオブザイヤー受賞を紋別港のPRに活用し集客に勤めて欲しい。」また、「みなとオアシスもんべつ運営協議会」の竹内珠巳代表からは、「全国の仲間、市民の郷土愛、応援団の皆さんの愛により、昨年のSea級グルメ全国大会でのグランプリとともに日本一に輝いたのはうれしい。みなとオアシスは走り出したばかり、さらなる地域の活性化のため、支援と協力をお願いしたい。」と、みなとを街づくりの核とした、更なる発展への意欲が表明されました。



祝 紋別港 ポート・オブ・ザ・イヤー 2018 受賞



紋別市受賞報告会

# 平成30年度 第2回小樽港 フィールド・ラーニング開催

小樽開発建設部は平成31年3月1日（金）、同部庁舎で平成30年度第2回目となる小樽港フィールド・ラーニング（O.F.L）を開催した。自治体、開建職員、民間企業の港湾および漁港の担当者ら約50人が参加。萩原建設工業㈱の関口信一郎特別顧問は「廣井勇と釧路港修築計画」と題して講演。今後の港湾整備に向け、当時の港湾計画や工学について研鑽を積んだ。

初代小樽築港事務所長である廣井勇博士が考えた港湾工学や当時の時代背景および史実等を学び、港湾技術者としての意識、技術力の向上を図るもの。平成24年度から開催しており、O.F.Lとは「小樽港（Otaru）で実物を見ながら（Field）知識を習得（Learning）」の略となっている。

関口特別顧問の講演は、平成28年度第6回から「北海

道開発の歴史～廣井勇博士の生涯」をテーマに連続6回シリーズとして行っていた。

関口特別顧問は、シリーズ最終回として「廣井勇と釧路港修築計画」と題し、港湾修築計画の事例として釧路港を取り上げて講演。釧路港の修築に当たり作成された設計図等を説明するとともに、廣井博士による防波堤構造等の技術的観点や、耐海水性コンクリートの製作などの功績を紹介した。

小樽開建小樽港湾事務所の本間薫計画課長は、小樽港北防波堤における新たな発見として、所蔵している資料等から構造や長期耐久性試験結果などについて報告した。

（記事は北海道通信から抜粋して掲載しました。  
写真提供は、北海道開発局 小樽開発建設部）



講演する関口特別顧問



報告する本間小樽港湾事務所計画課長



閉会挨拶：小樽港湾事務所 矢野所長



熱心に講演を聞き入る参加者

## ◎業界だより◎

### ◎会員代表の者の交代

(株)安藤・間 札幌支店 支店長	高柳 慎
大成建設(株)札幌支店 執行役員支店長	平島 信一
谷開発(株) 代表取締役	酒井 秀男
東亜建設工業(株)北海道支店 支店長	小野寺 勇
西松建設(株)札幌支店 支店長	菅原 秀明
前田建設工業(株)北海道支店 執行役員支店長	安西 忠信

## ◎広報委員会だより◎

令和元年5月現在の広報委員会は次表のとおりです。

委員長	小野寺 勇	東亜建設工業(株)
副委員長	白川 隆司	東洋建設(株)
(部会長)	東 志郎	萩原建設工業(株)
(副部会長)	大前 豊	五洋建設(株)
	荒井 直人	東亜建設工業(株)
	石島 隆司	近藤工業(株)
	高田 稔年	あおみ建設(株)
	千葉 不二夫	勇建設(株)
	毛利 照男	釧石工業(株)
	森 信幸	(株)不動テトラ
	渡辺 修司	(株)菅原組
	渡部 優	菱中建設(株)

※広報委員会からのお知らせ

会報「北のみなと」の編集・刊行基準第5条(10) 当協会会員からの寄稿記事

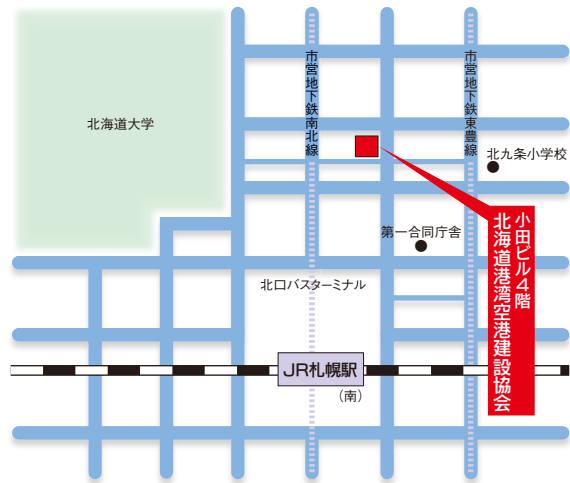
- ア 新造船(機械・装置含む)の紹介
- イ 注目される工事の着工、完成施設の紹介
- ウ 工事現場の紹介
- エ 各地域の技術研究会・イメージアップ推進事業などの紹介をおまちしております。





[写真提供：室蘭開発建設部]

## 北海道港湾空港建設協会 案内図



## 会報「北のみなと」No.97

発行年月 令和元年5月

発行 北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹  
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)  
 TEL (011) 707-4731 FAX (011) 707-4733  
<http://www.hokkaido-kkk.jp>  
 Email: hkkk@h4.dion.ne.jp

編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会  
 編集責任者 東 志郎

印刷 (株)須田製版